

令和8年8月28日

令和7年度 特別の教育課程の実施状況等について

学 校 名	管理機関名	設置者の別
信州大学教育学部附属長野中学校	国立大学法人信州大学	国立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
信州大学教育学部 附属長野中学校	https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/education/naga-chu/news/research/post-95.html

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果及び学校関係者評価結果の公表 URL
信州大学教育学部 附属長野中学校	https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/education/naga-chu/research/cat21299/post-50.html

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

・計画通り実施できている ・一部、計画通り実施できていない ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

- ・校務分掌（教科指導）に「あさひのラーニング（学際的な学習の時間）」を設置し、担当者が学習内容の計画を立案し、時数をカウントしながら実施することができた。
- ・あさひのラーニングでは、本校職員による探究についての学習に加え、信州大学、地元企業との協働学習を位置付け、生徒の探究心を育む教科横断的な学びを実践した。

教育課程表

教科	1 学年	2 学年	3 学年
国 語	132 (-8)	132 (-8)	100 (-5)
社 会	100 (-5)	100 (-5)	132 (-8)
数 学	132 (-8)	100 (-5)	132 (-8)
理 科	100 (-5)	132 (-8)	132 (-8)
音 楽	44 (-1)	34 (-1)	34 (-1)
美 術	44 (-1)	34 (-1)	34 (-1)
保健体育	100 (-5)	100 (-5)	100 (-5)
技術・家庭	66 (-4)	66 (-4)	34 (-1)
外 国 語	132 (-8)	132 (-8)	132 (-8)
特別な教科 道徳	35 (0)	35 (0)	35 (0)
あさひのプロジェクト (総合的な学習の時間)	50 (0)	60 (-10)	60 (-10)
特別活動	35 (0)	35 (0)	35 (0)
あさひのラーニング (学際的な学習の時間)	45	55	55

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
 - ・実施していない

<特記事項>

保護者に向けて、ホームページや参観日等により活動の様子を報告している。合わせて、月2回の学年だよりを全家庭に配付し、活動について情報を提供している。

また、地域住民や関係者が参加する学校評議員会において、活動の様子や職員・生徒へのアンケート結果を報告している。さらに、学校公式のSNSを開設し、外部へ情報発信を行っている。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別的教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

学校目標「ともに学び 一人となる」の具現に向け、「豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者」を目指す生徒の姿として据え、研究テーマを「『キャリア×STEAM』の学習による新たな価値を創造できる資質・能力の育成」と設定している。教科学習と「あさひのプロジェクト（総合的な学習の時間）」の学習をつなぐ「あさひのラーニング」を創設し、教科学習を土台としながら、社会とのつながりを意識して、連続的・発展的に学びを深めていけるような教育活動を編成してきた。「あさひのラーニング」の学習によって、教科横断的な学習が実施でき、さらに学習を通してキャリア教育における基礎的・汎用的な資質・能力を育成することができており、研究テーマや目指す生徒の姿の具現につながっている。

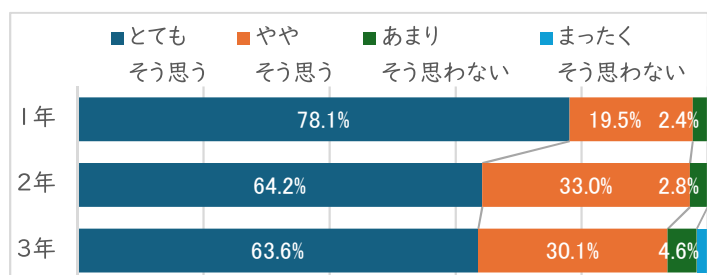
(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

幅広い知識と教養の習得、豊かな情操や道徳心、創造性や自主・自律の精神の涵養などを目指して行われる学校教育を通じ、社会において自立的に生きる基礎を培い、必要とされる資質を養うため、「あさひのラーニング」では教科学習を土台とし、教科横断的な学習を実施している。「あさひのラーニング」等の取組を通じ、本校が究明しようとしている「キャリア×STEAM」は、各教科を学ぶ意義を社会とのつながりの中で生徒が実感できるようにするための取組であり、学校教育法等に示された「学校教育の目標」をよりよく具現することにつながると考える。そのため、学校教育法第二十一条 三～九にある目標に沿った実践が行われている。また、信州大学の教授など、専門家を招いた講演会も実施し、生徒が、学ぶ意義を感じ、将来にやりたいことや夢を発見することができるようにしている。このような実践は、学校教育法第二十一条十の目標につながっていると考えている。

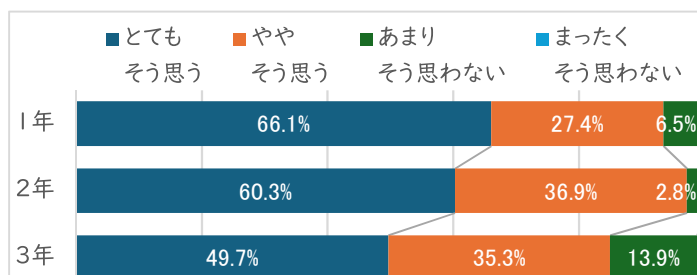
5. 課題の改善のための取組の方向性

「あさひのラーニング」に関して、信州大学教育学部 北澤嘉孝 特任教授が実施したアンケート調査（令和7年12月実施対象：本校全生徒）を分析し、以下のような取組の方向性を考えた。

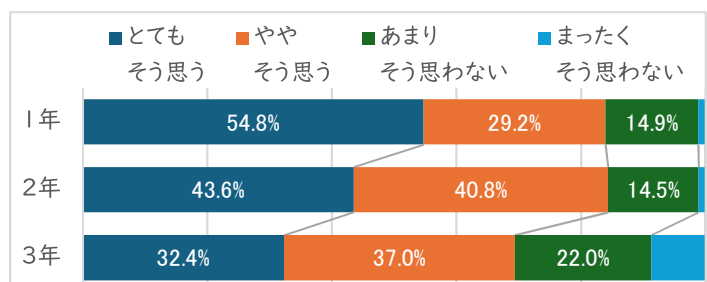
■この学習は楽しかった



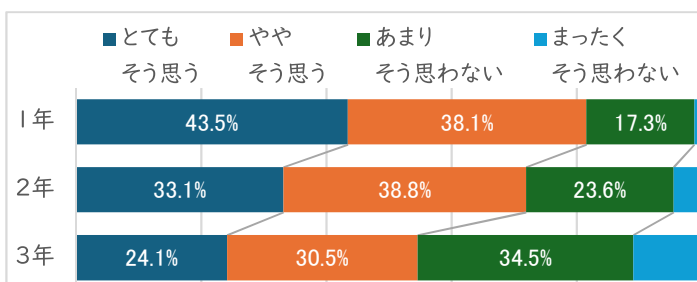
■充実した学習になった



■異なる教科で学んだ知識を組み合わせる思考ができた



■自分の得意なことや好きなことがわかってきた



「■この学習は楽しかった」では、各学年とも90%以上の生徒が「あさひのラーニング」を肯定的に捉えている。また、「■充実した学習になった」では、各学年で比較すると、2学年で肯定的な回答をしている生徒の割合が他学年に比べて多い。これは、2学年におけるデザイン思考を中心に据えた展開が生徒の興味や関心と合致していたからだと考える。一方で、「■異なる教科で学んだ知識を組み合わせる思考ができた」、「■自分の

得意なことや好きなことがわかってきた」では、3 学年において肯定的に捉えている生徒の割合が、それぞれ 70%, 55%程度にとどまっていた。これは、学年単位で学習内容を設定しているため、教科で学んだ知識や技能を関連付けて発揮する場面や、自分の得意や好きを生かす場面が限られていることが要因だと考えた。また、自由記述では、異学年・異学級の生徒と学びたいという要望もあった。

このような状況から、目標や学習内容をより明確にし、生徒が自由に学習内容を選択できるようなカリキュラムに変更していく必要性が見えてきたため、令和8 年度では、以下のように改善する。

①教科横断探究講座学習を位置付ける。

- ・複数教科の学びが生かされる講座学習を 10 講座開設し、生徒が自らの興味・関心に基づいて学習内容を選択できるようにする。また、本講座の学習により、問いを立てることや、デザイン思考といった探究の方法を理解し、キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」を育成することを目指している。
- ・第1 期：2, 3 学年 第2 期：1, 3 学年 第3 期：1, 2 学年で実施し、異学年で共に学ぶことができるようにする。

講座名	教科横断の内容
地域の魅力を動画で発信しよう！	社会科×国語科×技術分野
折り紙で利益を生み出そう！	数学科×社会科×美術科 (金融教育講座)
酵素の力でお肉を美味しくしよう！	理科×家庭分野
駅前 Re デザイン	美術科×技術分野×社会科
怪我をしない遊びをデザインしよう！	保健体育科×社会科×国語科
Signage Design Project	技術分野×美術科×英語科
誰かの「宝物」になる絵本をつくろう	家庭分野×国語科×美術科
Let's make our original drama in English	英語科×国語科
80 周年記念歌をつくろう！	音楽科×国語科
君のアイデアで附中を動かそう！	社会科×数学科 (アントレプレナーシップ講座)

②メソッド学習を位置付ける。

- ・1, 2 学年において問いの立て方やデザイン思考を学ぶ講座を設け、探究の方法を身に付けることができるようにする。

③外部連携学習を位置付ける。

- ・STEAM 教育やキャリア教育に関する講演会を複数回設け、探究する楽しさや新たな価値を生み出すための挑戦心・好奇心を学ぶことができるようにする。

以上のようなカリキュラムを実装するために、令和8 年度では以下の指定を受けている。

- ・長野県金融広報委員会「金融経済教育研究校」
- ・IJIE - Nexus「令和8 年度アントレプレナーシップ教育実践パートナー校」

また、令和8年度のグランドデザインにおいて、「やりたいことや夢に基づき 失敗を恐れずに踏み出し、新たな価値を創造していく人の育成」へ向け、「社会参画の意識」、「学ぶ意義の感得」、「自己効力感」、「やりたいことや夢の発見」の高まりを目指していくことを示している。